

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【生活単元学習】

1. 対象（小学部3年 6名）
 - ・教師と関わるのが好きな児童が多く、教師に話し掛けたり、身体的な遊びを要求したりする。
 - ・児童同士での関わりは薄く、教師が間に入ることが多い。
 - ・表出言語がある児童が5名、残りの児童1名は身振りで要求を伝えることができる。
 - ・教師には自分なりの表現方法で気持ちを伝えることが増えてきたが、友達にはうまく伝えられず、関わりが一方的になってしまったり、トラブルに発展したりしてしまうこともある。
 - ・3年生になりクラスや学年として活動することが増え、同じクラスの友達が分かり、集団で行動する意識が芽生えつつある。
 - ・集団の流れに乗ることが難しい児童もいるが、教師と一緒に取り組んだり、興味のある物を設定したりすることで、集団と同じ場所や集団の中で活動に参加できる。
 - ・昨年度はカブトムシの幼虫やバッタを、今年はザリガニを飼育し、生き物に触れる体験をした。
 - ・6月の生活単元学習では、地域に出掛け、生き物を捕まえたり、観察したりする活動に取り組んだ。
2. 単元名 「かくして さがして 生き物パーク！」（全18時間）
3. 単元で育成を目指す資質・能力→「人と関わりながら遊ぶ力」
 - ・池や草むらを模した場で友達や教師と一緒に生き物を探したり、隠したりすることができる。
4. 本時の目標
 - ・生き物パークで友達や教師と一緒に生き物を隠したり、隠れている生き物を探したりすることができる。
5. 授業展開【 本時 】

解決したい課題や問い
「生き物パークに隠れている生き物を友達と一緒に見つけよう！」

考えるための材料		
・草むらに見立てたポンポンや箱	・隠れている生き物が一覧になった表	・一人では使うのが難しい道具
想定される姿		
・どうすれば隠れている生き物を見付けられるか考えて、草むらのポンポンをどかしたり、箱をひっくり返したりする。	・見付けていない生き物が分かり、生き物がいそうな場所の中から探す。	・どうすれば使えるのかを考え、友達と一緒に物を運んだり、上にある物を取ったりする。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）	
・一人ずつ順番に探す。友達の取り組む様子を見て待つ。	・探している友達の様子を見て、同じように探そうとしたり、探している友達を応援したりする。「〇〇さん、あそこ探しているな。ぼくもやってみよう。」「〇〇は見付けられるかな。頑張る。」
・一人では、見付けにくい場所や捕まえにくい場所（一人で持つには重い箱の下や手が届かない場所等）に生き物を隠し、どうやって探すか問い掛ける。	・隠れ場所を他の友達に教えたり、一緒に箱を持ったりして捕まえたりしていく。「〇〇さん、あそこにいるよ。」「〇〇さん、一緒に持って。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）
<ul style="list-style-type: none"> ・見付けた生き物をみんなの前で発表する。自分が見付けた生き物のイラストを教師や友達に見せる。 ・一緒に探した友達と見付けた生き物を見合ったり、喜び合ったりする。 ・生き物を見付けた友達にメダルを渡す。ハイタッチしたり、称揚したりする。